

こども医療センター

北病棟 5 階

(小児科、共通)

1. 看護単位の概要

病 床 数 30 床

小児科 29 床 共通 1 床

2. 病棟の特徴

1) 小児科

血液疾患（白血病、悪性リンパ腫など）、悪性固形腫瘍、先天性心疾患、神経疾患、内分泌・代謝疾患、免疫・アレルギー疾患、消化器疾患など、あらゆる疾患をもった小児が治療対象となる。血液・悪性固形腫瘍に対しては、化学療法・放射線療法や造血細胞移植を行っている。そして、神経疾患や心疾患患者では、退院後の在宅管理が必要とされる場合も多く、小児科外来と連携を取りながら退院支援を行っている。また、小児科外来では、造血細胞移植後患者の長期的な支援として、造血細胞移植後フォローアップ外来や、一型糖尿病患者の療養指導なども行っている。

- * 小児患者の治療環境においては、子どもと家族双方の治療に対する前向きな気持ちを引き出すことが重要であり、チャイルド・ライフ・スペシャリストが、より専門的な知識をもって、子どもや家族の支援を行っている。
- * 小児期は心身ともに成長・発達する時期であり、入院期間中であっても可能な限り遊びや学習を通じた子どもらしい生活を送ることが望まれる。家族はもとより、保育士・院内学級の教員・ボランティアと協力しながら、発育を促す関わりを心がけている。
- * 小児がん拠点病院として、小児がん患者（小児及び AYA 世代の患者）とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備を目指している。